

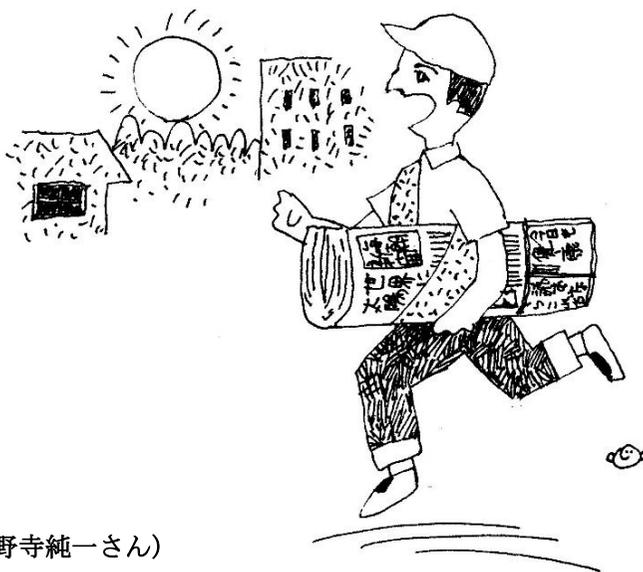


# 私たちは、支えられて、支えてる

画家 小野寺 純一

朝のラジオ体操は「新しい朝が来た、希望の朝だ」の歌声からはじまります。今日もやるぞという気分させてくれるのも、体操の効用なのであります。終って郵便受けに行くと今日の新聞がない、いつも届いているはずなのに、今日は休刊日だったのを思い出して、少しガッカリ、やるぞのパワーがちょっと落ちて、昨日の新聞でお茶をにごすのであります。トップニュース、解説、コラムがあり、文化・家庭、生活、社会面、まんがとなっていてあらためて見直しておりますと、実にさまざまな人たちが関わっていることに気がきました。紙をつくった人、インクを作る工場、印刷、裁断、ページを折り込んで完成、それを運ぶトラック、販売店ではチラシを挟みこみ、配達員の方々が朝早くから一軒ずつ配ってあるくことになっておりますが、ここで雨などにふられますと、ビニール袋に包む作業が加わって現場はてんやわんやになるんですね。ながながと書いてまいりましたが、新聞についても、こんなに人手がかかっているんですね。ましてや私たちのくらしも、いろんな人たちが関り、自分も含めて成り立つという構造になっていて、あらためてすごいもんだな一と思うわけです。その新聞が我れらの図書館にも常備されており、大勢の方々に楽しんでいただいているようです。この図書館には書物がきちんとジャンル別にならべられ、とても気持のいいものです。人間が文字というものを発明してこのかた、書物としてあらわされ、それをまとめて保管されているということは、非常に貴重な文化源なんですね。私が図書館に行くと感じる日常にない浮遊感と申しましょうか、不思議な感覚にとられる事があります。思うに、一冊の本にこめられた作者の一念みたいなものが本からあふれ出し、館内でもつれ、思念が漂っているように思えるのです。そういった意味で異界のスペースと感じるのかも知れません。このごろはDVDやCDなども揃えられ、知の世界もぐっと広がってきました。うれしいかぎりです。図書館で学んだ森羅万象の営みは、あたりまえと思っていたことが実は奇跡的な出来事であり、微妙なバランスで保たれ

ているというのです。私たちもまた地球の宇宙の一員として、支え、支えられる人間でありたいものだと、コーヒーをのみなながら休刊日に考えました。



(絵：小野寺純一さん)